

## 700/900MHz帯移動通信システムに係る参入希望調査の結果概要

提出者名	イー・アクセス株式会社	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	KDDI株式会社及び 沖縄セルラー電話株式会社	ソフトバンクモバイル株式会社	
1 導入を希望するシステム	(1) 700/900MHz帯の周波数割当てを希望する理由	ー競合他社との競争力確保 ー高速なデータ通信の導入 ーカバーエリアの拡大 ートラヒック増への対応	ートラヒック増への対応	ー加入者・トラヒック増への対応 ー800MHz帯保有の競合他社と同等のカバーエリアの展開 ー災害に強いインフラ構築	
	(2) 割当てを希望する周波数帯及び帯域幅	900MHz帯において15MHz幅×2及び700MHz帯において10MHz幅×2又は15MHz幅×2	900MHz帯又は700MHz帯において15MHz幅×2	900MHz帯において15MHz幅×2	
	(3) 導入を希望する技術と導入希望時期	900MHz帯:平成24年にLTEを導入 700MHz帯:平成26年以降LTEを導入	認定後早期にLTEを導入	認定後早期にLTEを導入	平成27年にLTEを導入 (当初はHSPA+を先行導入)
	(4) 基地局整備の方針	都市部から展開し、認定後5年を目途に人口カバー率99%以上	高トラヒック地域から展開し、順次エリア拡大	高トラヒック地域から展開し、早期に全国展開	利用開始から1年以内に人口カバー率70%
2 周波数割当てに関して	(1) 一の免許人に割り当てる帯域幅及びその理由	900MHz帯:15MHz幅×2 700MHz帯:10~15MHz幅×2 理由:高速通信への対応、周波数利用効率、競争促進	15MHz幅×2 理由:トラヒック増への効率的対応	15MHz幅×2 理由:トラヒック増への効率的対応	900MHz帯は15MHz幅×2 理由:周波数利用効率、将来の拡張性、移行周波数の有効利用
	(2) 免許人が満たすべき要件	ー割当て周波数でのLTEの導入 ーMNO間のネットワークシェアリング・SIMフリー端末の提供 ー人口カバー率・計画の確実性	ーシステムを安定的に運用する能力・財務的基礎 ー電波の有効利用を促進する技術力	ー周波数の有効な利用計画 ー周波数移行に係る財務的基礎 ー従来サービスからの連続性 ー研究開発・新サービスへの取組	ー周波数の利用実績 ー周波数移行に係る財務的基礎 ー900MHz帯は800MHz帯の未割当者に限る
	(3) 複数の申請があった場合の審査方法について留意すべき事項	ーLTEの人口カバー率・料金水準 ーネットワーク開放度(MVNOユーザ比率・SIMフリー端末比率) ーネットワークの信頼性 ー周波数イコールフットイング	ー周波数の逼迫度合い(単位周波数当たりの利用者数) ー研究開発能力・国際標準化の実績等の有無	上記要件について、その度合い	ー負担可能額の多寡より周波数の逼迫度合いを最優先 ー800MHz帯の未割当者を優先 ー積極的な設備投資実績
	(4) 既存無線局の周波数移行について留意すべき事項	ー移行費用の適正化・明確化	ー既存無線局に関する詳細情報等の提供と十分な検討期間 ー交渉窓口の一本化、手続の簡素化・簡略化	ー既存免許人による期限・費用等に係る情報の適切な提供 ー移行費用の範囲の明確化 ー仲裁機能等の仕組みの確立	ー移行システムに関する詳細情報の公開 ー移行費用の適正化・明確化 ー関係者における交渉窓口設置
3 その他御意見	ー700/900MHz帯の一方の帯域の認定者は他方の認定を受けられないようにすることも考慮	ー700MHz帯のTV受信系装置に対する検討が必要	ー700/900MHz帯は一括して扱い、一方の認定者は他方の認定を受けられないようにすべき ー700MHz帯のTV受信系装置に対する検討が必要	ー900MHz帯の周波数割当て時期は、機器調達等の観点から、本年中(利用開始半年前)に確定すべき	